

## 第4回VERAユーザーズミーティング報告

亀谷 收 (水沢VERA観測所)

2006年10月10日から11日にかけてVERAユーザーズミーティングが国立天文台三鷹キャンパスのすばる解析棟大セミナー室で行われました。今回で第4回を数えます。

これまで水沢VERA観測所は、プロジェクト観測を続けながらVERAの性能確認を行いつつ、一般ユーザーに対しては観測のリスクを共有してもらって試験的共同利用を行ってきました。今年までのプロジェクト観測の結果、幾つかの天体で世界一級精度の年周視差計測に成功した事を受けて、VERAのシステムが共同利用に正式に供せると判断が下され、2006年から共同利用を世界にオープンすることになりました。

今回のユーザーズミーティングは、本格的な共同利用の提案書締切直前のユーザーズミーティングであるという意味で、VERAの観測性能や解析手法の説明等がとても重要な意味を持つ会になりました。国内の研究者・大学院生を中心に約70名の参加があり、24件の口頭発表と15件のポスター発表に対して活発な議論がされました。プロジェクト観測結果として、銀河系中心領域、近傍ミラ型変光星の周期光度関係、近距離分子雲立体構造、中距離天体距離計測等についてVERAの各担当者から話がありました。今回は特に、S269やオリオンKLの水メーザー観測の結果から求められた年周視

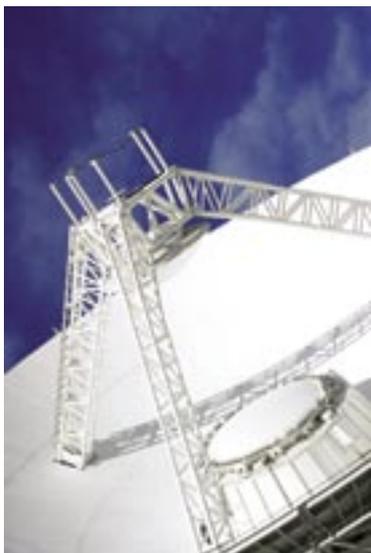
差の報告が注目を集めました。試験的共同利用の結果としても、M型星や晩期型星周囲の一酸化珪素メーザーのモニター観測による動きの報告などが注目を浴びていました。

2006年の共同利用は、22GHz帯のみの公開ですが、参加者からは、一酸化珪素メーザーの観測ができる43GHz帯共同利用の解禁の強い希望があり、今後の検討事項となりました。

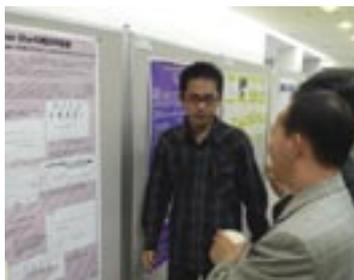
関連プロジェクトの講演では、大学連携VLBI観測、光結合VLBI観測網、韓国のVLBI計画であるKVN、東アジアVLBIネットワーク、VSOP-2など、現在進行中の計画の詳細が具体的に報告され、注目を浴びました。その中でも、来年夏にH-IIAロケットで打ち上げ予定のSELENE計画の一部を担うRISEは、1年間VERAを使用する計画でもあり、現状と観測計画について多くの質問がありました。

若い大学院生が多いこともあり、第一日目の夜にコスモス会館で行われた懇親会は非常に盛り上がりました。VERAの本格的な共同利用を通して、多くの若い研究者が育てて欲しいと願っています。

研究発表の内容は、VERAのホームページ <http://veraserver.mtk.nao.ac.jp/index-j.html>上に公開されています。ご興味のある方は、是非そちらもご覧ください。



▲ VERA 水沢局の 20m 電波望遠鏡。



▲ポスターの前での熱心な議論。



▲口頭発表での議論。



▶盛り上がった懇親会のようす。